大田原税務署管内税務連絡協議会長賞

当たり前を支える税金

大田原市立金田南中学校

２年　田村　真湖

「税金」と聞いて私が最初に思い浮かべたのは、買い物のときに払う消費税くらいだった。他にも所得税や住民税などがあることを知り疑問に思ったことがある。それは「税は誰のためにどのように使われているのか」ということだ。初め、税金は大人に関係するものであり、自分にはあまり関係のないものだと思っていた。しかし、税について調べていくことにつれて、私の考えは大きく変わることになっていった。

税金について気になったことを調べてみた。すると、消防や警察、医療、道路、ゴミ収集などさまざまな公共サービスや社会保障などに利用されているということを知った。私はこれまで当たり前だと思っていた日常が、多くの人の税金によって支えられていることにとても驚き、感謝の気持ちが大きくなった。毎日学校へ通い、教科書を使って授業を受ける。何気なく通る通学路、これらは全て当たり前の生活ではないことを改めて実感した。多くの人が納めている税金によって私たちの生活は支えられているのだ。税金は人ごとではないと思うと同時に、「自分にはあまり関係がない」という考えが間違っていたということに気がついた。

今年の夏、私は市内の交流事業でアメリカを訪れた。現地では市役所や消防署、警察署などを見学する機会があった。実際に訪れて地域の安全を守る仕事について話を聞いたり、仕事の様子を見学したりして、日本と同じように人々の安心・安全の生活を支える仕事を行っているということが分かった。また、普段の活動でも街を走る消防車やパトカー、救急車などを目にして、地域の安全を守る公共サービスの仕事をとても身近に感じた。たとえ国が違っていても、人々の暮らしや命を守るための仕組みは、欠かせない存在であるということに気づいた。アメリカでの交流事業を通して、消防や警察などの公共サービスを日常的に利用することができるのは、これらの仕組みを支えている多くの人の力があるからだと考えた。

最初は税金はただ人々の生活に負担をかけているだけのものであり、私たちには関係のないものだと思っていた。けれど税について調べていくうちに、税金は一人一人が安心して生活できるように、人々を支える重要な役割を果たしていると知って、税金はなくてはならない存在だということに気づいた。そして将来は今よりもっと多くの税金を納める立場になるので、今から税の大切さについて知っておくことが、これからの将来につながっていくのだと思う。

税金を納めることは国民の義務である。しかしそれだけではなく、今の社会を支え、未来の安心できる社会にもつながっているのだと感じた。だからこれからも「当たり前」である生活を支える税金の大切さを忘れず、税について学び続け、社会を支える一人として考えていきたい。